プチポワ独占インタビュー

作曲家 細川俊夫 さん

モネ劇場の委嘱によるオペラ「松風」の世界初演を前に、作曲家の細川俊夫さんに音楽の楽しみ方などを語っていただきました。公演はすでに終了していますが、これをきっかけに、音楽の楽しみを皆さんの生活の一部にしていただければ幸いです。

作曲家になろうと思ったきっかけ

子どもの頃からピアノを習っていたのですが、ちゃんと練習するのがきらいで、即興でピアノを弾いていました。風の音など自然の響きをピアノで表現するのが好きでした。そして、中学生の頃から自分の曲を作りたいと思うようになりました。祖父が生花の先生、母は琴を演奏するなど日本的な家庭で育ちましたが、そういった日本的な古臭いものが大きらいで、ヨーロッパのモーツァルトやベートーベンなどに心を燃やすものがありました。今は、日本の伝統音楽も勉強して好きになりましたが、そうやって自分の伝統を愛するまでには 長い時間がかかりました。

作曲家としての日々のトレーニング

古典音楽の中からの勉強、バッハから最近のシェーンベックまで、また仲間の作曲家の音楽を聞き、スコア（総譜）を読んで勉強しています。良いコンサートにもたくさん行くようにして、いつも頭に刺激を与えるようにしています。シューベルトなど偉大な作曲家の作品は、いくら勉強しても尽きないんです。どうしてこうなっているんだろうという疑問に触れていると、自分への刺激になり良い勉強になります。最初は、曲に惹かれつつもよく分からなかった作品でも、勉強すればするほどだんだん分かってくるんです。どの作曲家にしても大量の作品を残しています。これはすごいですね。シューベルト、ベートーベン、バッハなど、彼らは毎日作曲していたんです。どうしてこんなに書けたのだろうと、感心します。彼らは作曲職人としてすごい力を持っていましたね。

「松風」の完成まで

「松風」は、ベルリン、ワルシャワ、ルクセンブルグそして、ブリュッセルのモネ劇場の共同プロジェクトです。曲を書いたのは6カ月間くらいですが、7～8年前から構想があり、オペラの候補として準備していました。実は、常にオペラの素材を探しています。今回の振り付け師、世界的に有名なベルリン在住のSasha Waltzとも交流があり、日本で一緒に能を見ました。そういう経緯で日本の能とは全く違った動きを持ったオペラ「松風」を作りたいと思いました。前作の「斑女」の振り付け師Anne Teresa De Keersmaekerの方がより能に近い動きを取り入れていましたが、今回は全く違う要素でダイナミックな動きがあります。ダンスシアターみたいです。2つのオペラをヨーロッパで優れた女性振り付け師とともに作れてラッキーでした。モネのスタッフは新しいことに理解があり、制作しやすかったです。

真のヨーロッパ

日本ではこんなチャレンジはとてもできません。日本はかつてのヨーロッパのすばらしいものを模倣することで精一杯ですから、新しいものを作って世界に提起するという考え方はまだありません。我々の世界では、ヨーロッパの古い衣装を着て19世紀の時代を忠実に表現したオペラは過去のものなんです。現代に生きている中で、音楽というもの、オペラがどう提示できるかというのが課題ですから、過去のものをそのまま持ってくるのはだめです。日本の人は、ヨーロッパを誤解しているんです。誤ってあこがれていて、また、誤って批判しているんです。ヨーロッパも生きていますから、常に新しい創造的な世界なんです。特に日本のクラシック音楽の世界は、19世紀に取り入れたイメージをそのまま引きずっていますので、創造的ではありません。しかし、常に動いている世界ですから、その中で生き抜いていくためには、芸術も同じで、昔ばかりを見てあこがれるのはやめて欲しいです。つまり本当のヨーロッパをまだ知らないんです。いいことばかりではありませんし。

現代音楽と出会うコツ

生きている現実と向かい合って、音楽を聴いて欲しいですね。調和の取れたハーモニーに満ちた世界に生きているわけではないですから、その中で音楽

World International School
www.wis.be

Looking for an internationally-minded school for pupils aged 2 ½ to 16 and prepares 11 to 16 year olds for an internationally-certified qualification ?

280 Chaussée de Waterloo—1640 Rhode St. Genèse
Tel: 02-358.56.06 E-mail: office@wis.be

韓国料理レストラン
ソウル
世界で一番おいしい
焼肉をお楽しみ下さい。
ニンニク炒飯、カルビ
韓国豆腐なべ あります。
ヒルトンホテル（Hotel HILTON）前
営業時間：12:00～14:00 18:30～22:30
日曜昼、月曜、火曜昼休み
RUE CAPITAINE CRESPEL 14, 1050 BRUSSELS
TEL ０２－５１３－１７２５

の深さ、現代人の生きている声を聴いて、音楽がこういうものであるという思い込みをを壊して聴いて欲しいです。それは現代音楽に対してだけでなく、モーツァルトやベートーベンに対しても同じです。いつも新しい耳で、自分が生きていることと深くかかわりながら音楽を聴いてもらわないと、それは過去の遺物になってしまうんです。ベートーベンの作品でも現代人が演奏すると過去とは違った表現があるわけです。解釈、オーケストレーションも違うわけですし、楽器も、演奏する人数も違います。今ベートーベンの音楽がいかに生きるか、喜びや悲しみ、苦しみの感情など自分の問題と照らし合わせて、聴いていただきたいです。今生きている自分とのかかわりが大切なのです。

自然の中の人間とは

「松風」は今回の地震が起こる前に完成していましたが、風や波の音を表現した作品で、今、この音楽を聴くと津波を連想させます。2人の不幸な女性の愛がテーマで、歌うことによって、想像の中で主人公は愛した男性ともう一度出会い、開放されて魂が風という自然の一部になり、死の世界に戻っていきます。自然は暴力的な要素も持っています。そして、自然の存在というのは理由が分からないんです。コップやお皿など人間が作ったものは存在する意味がはっきりわかりますが、草木などはどうしてそこにあるのか分からないですね。人間の存在も自然の内にあり、その運命も自然の一部です。日々の生活を私たちは計算しますが、私たちはいつ死ぬのかも分からないです。津波で命を失った方たちは、どうしてこうなったか分からない訳です。そこで、考えなければいけないことがあります。人間は、自然とともに生きているということです。そして、そういう運命にさらされていて、その中で生きていく喜びや悲しみを体験していくわけですが、人間が作った現代社会の世界にいるとそれが分からなくなってきます。昔は自然と調和して生きていましたが、見失いつつある自然との調和を考えなければいけません。自然との闘い、原発など人間が作ったモンスターのような物は本当に必要なのか、近代文明は正しかったのかなどを考え、もっと違った人間としての生き方、社会があるはずだと、根本的なことを再考するいいチャンスだと思います。昔の日本の家は木と土でできており、家が古くなり壊れた後は、自然の循環の内に帰っていきました。現代は、津波に流された車や家のようにいつまでも廃棄物として残ってしまうものがあります。自然のサイクルの中での人間の生き方を考えないといけません。

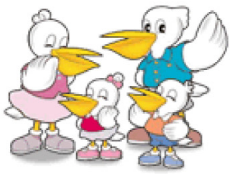
オペラ制作の舞台裏

オペラ上演に関し、劇場監督、演出家、指揮者が歌手などの選択権を持っていて、作曲家は何も言えないんです。基本的に作曲家は、すでに死んでいますから（笑）。前回の「班女」のリハーサル時でも意見を言おうとしたら、振付師から「作曲家はすでに死んでるの」と言われてしまいました（笑）。公演時に作曲家はいなくてもいいんです。他の歌手や指揮者、演出家などはいないといけないんですが。本当に作曲家は孤独なんです。でも、いいスタッフにめぐり合うと、自分の想像力を超えたすばらしい作品が完成し、うれしく思います。共同作業ですから、演奏家が作り出す世界はすごく大きいです。自分で指揮棒を持つこともありますが、他の指揮者の演奏で、自分の作品が想像した以上に素晴らしいものになるときがあります。作曲家は作品で成果を残し、演奏家はいい演奏をして成果を残しています。

ほそかわとしお

1955年10月23日広島生まれ。ベルリン芸術大学、フライブルグ音楽大学で作曲を学ぶ。1982年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団創立100周年記念作曲コンクール第1位をはじめ、中島健蔵音楽賞（1988）、ラインガウ音楽賞（1998）、デュイスブルク音楽賞（1998）、ARD-BMWムジカ・ヴィヴァ賞（2001）、サントリー音楽賞（2008）、芸術選奨・文部科学大臣賞を受賞。2001年、ドイツ・ベルリンの芸術アカデミー会員となる。オペラ作品には、1998年、ミュンヘン市からの委嘱による『リアの物語』（台本･演出＝鈴木忠志）、2004年、エクサンプロヴァンス音楽祭の委嘱による『班女』（大野和士氏の指揮によりフランスの同音楽祭とモネ劇場で公演、2011年モネ劇場で再演）、2011年、世界初演の『松風』（モネ劇場）がある。ザルツブルク音楽祭委嘱で、ウィーンフィル（指揮、ゲルギエフ）による「循環する海」、ルツェルン音楽祭、カーネギーホール共同委嘱で、クリーヴランド管弦楽団（指揮、フランツ・ヴルザー・メスト）で「夢を織る」、ベルリンフィル委嘱（指揮、サイモン・ラトル）でホルン協奏曲を初演し、それぞれ大きな成功を収める。1998年より東京交響楽団の専任作曲家。コンポーザー・イン・レジデンス。2001年より武生国際音楽祭音楽監督。現在、東京音楽大学客員教授。

海外引越、国内引越、ペリカン便
事務所移転も日通へ



ご帰国引越で不要になった家具をご後任、ご友人宅へ
“おゆずりライナー”で、ご配送いたします。
そのほか、ピアノの移動、お引越後のハウスクリーニング等
なんでもご相談ください！！

ベルギー日本通運　海運貨物・航空貨物・ロジスティックスも日通へ

NIPPON EXPRESS BELGIUM
BRUCARGO BLDG/738B - 1931 ZAVENTEM
TEL/ 02-751-7814/15 FAX/ 02-751-9246

メールアドレスが変わりました
E-mail/ neb.removal@neeur.com
http://www.nittsu.eu/be/